論　　文

可見元代石刻拓影目録稿・四続（武宗仁宗年間）

可见元代石刻拓影目录稿・四续（武宗仁宗年间）

森田　憲司*

Kenji MORITA

「可見元代石刻拓影目録稿」の４回目として、武宗・仁宗年間を掲載させていただく。『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』では、元朝３巻のうち、２冊目第49巻の前半４割分ほどが、対象となる。

この目録は、現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることのできる元朝石刻についての目録であり、その作成の趣旨については、第１回目（本誌17号掲載）の冒頭に書いた「この目録について」を参照していただきたい。

さて、この作業をスタートして以後、新たに入手可能となったり、目にすることのできるようになった石刻関係書は少なくない。これまでは「継続性の維持」という方針から、これらの文献を採録対象に追加せずにきた。しかし、文献の数が増加し、しかも地域単位の刊行物が多く、所収の資料の中に他の文献には見えないものが少なくないことを考え、あえて、今回から増入することとした。たしかに「継続性」という点からことを考えれば問題はあるのだが、この作業がまだ長期にわたるであろうことを考え、あえて踏みきった。

それとともに、今回の目録においては、これまでと編集の方式に若干の修正をおこなった。具体的には後述する。また、「凡例」のうち変更・増補のある箇条の文末に、★を付した。

対象書目の増加のほかに、どのような点を、今回改めたのかを、述べておきたい。

１つは、「題名・題刻」の問題がある。

曲阜の孔廟にある「参謁刻石」のようなものもあるが、多くは野外、とくに「摩崖」の形で刻されていることが少なくない。最近この種のものについての資料集の出版が増えてきているが、この目録でも収録対象として本腰を入れることとした。刻者の名前を中心とした短いものがほとんどで、史料として見れば、「使える」余地は少ないものではあるが、石刻であることに違いない。また、題刻の資料集の多くが写真であり、「拓影」でないことも問題と言えなくはないが、明瞭に読み取れるものであれば、採録することとする。むしろ、年代の確定、すなわち干支のみのものの比定や後刻・僞刻の検討が課題として残り、さらには自身でタイトルを持たないものが大部分ゆえに、命名の方式に考えるべきものがあると思う。今回は人名と必要な場合に小地名を付したが、これでいいのか、今後も考えていきたい。明瞭に読み取れる写真も採録の対象とすること

2011年９月８日受理　*文学部史学科教授

は、題刻以外でも同じである。ちなみに、最近では石刻の上に拓本を乗せた写真を掲載する資料集もある。

２つ目には、これまでも繰り返し述べてきた石刻の命名の問題である。これには検討すべき点が多い。筆者の考えを、旧稿にもとづいて再説する。

まず第一に、新たに命名するのか、原石にあるタイトルをそのまま取るのか。これについては、一長一短があり、後者はたしかに厳密ではあるが、その一方でしばしば長文であって、一見しただけはその石刻の内容を把握しにくく、実務性に劣る。「菁華」においては、以前は、目録での表示は簡潔な名称を命名し（拓片題名）、データとして原石にある表記を注記していた（根拠題名）。しかも、検索では、「根拠題名」中の語からも当該の石刻が表示されるという方式をとっていて、以前のこの目録では、合理的な方法ではないかと紹介した。しかし、現在では「其他題名」という項目に代わってしまい、新収の石刻については、それも入力されていない。煩瑣なるがゆえであろうか。一方、国内の公刊された拓本目録で一番整っている東洋文庫の場合、凡例の標題の項に「本文頭題もしくは碑額題を標出した」とあり、さらに「文頭原題」の項を設けている。これも穏当な方式ではある。ただし、標題として何を用いたのかについて、個々の項目で注記されてはいない。おそらくは、頭題（ここで言う「首題」）を標題に使用した場合はあらためて何も注記しないということなのだろうが、その旨の記述は見当たらない。

命名の方式については、今後とも検討していきたいと考えているが、もし、新たに命名するとすれば、そのための原則を作る必要があり、さらにその前提となる石刻の種別とその呼称については、石刻学の最も基本的な項目であるにもかかわらず、清朝石刻学以来、論者ごとにすべて異なっていると言っていいほどだから、それはそれで一朝一夕にできることではない。

聖旨・詔勅などの命令文に関しては、石刻自体には特段の名前を付されていないことが多く、せいぜい「聖旨」などの語が額に刻されている程度である。したがって、どのように命名するかについての原則を考える必要がある。蔡美彪氏の『八思巴字碑刻文物集釈』が公刊されたのを機会に、表記の原則の再検討をおこない、対象、年次（複数刻の場合は略）をタイトルに入れるようにしてみたのだが、まだすっきりとしない。なお、１つの石に複数の命令文が刻されている場合、資料集によっては、それぞれの日付の箇所に著録するものもあるが、この目録は石刻拓影についての目録なので、可能な限り石単位にするようにした。ただし、典拠となった資料集の編集方式の関係で徹底できていないものもある。そのほか、漢字以外の文字が併刻されている場合など、命令文独特の問題があるが、それらについては、なるべく注記で記述することとした。

なお、前回に引き続き、大徳11年の孔子加封の聖旨を刻した石刻の問題が、本回でも存在する。この聖旨を刻した石刻が多数現存することはよく知られているが、これの取り扱いについては、次のような方針とした。まず碑名については、各碑に篆額などがある場合はそれに従い（「加封聖旨」とか単なる「聖旨」のばあいを除く）、とくに無い場合は「加封孔子聖旨碑」で統一する。次に年代については、もし題記や題名の部分に日付がある場合は、その箇所に配列し、とくに無い場合には11年７月に配列した。従って、この聖旨の石刻が一箇所に集まる形にはなっておらず、かなり後の時期までこの碑の項目が散在することとなる。また、新たに収録対象にした文献にこの聖旨のみの石刻があった場合、将来の増補まで著録できないこともありうる。

ところで、今回収録したのが、200件強。期間は13年間であるから、それ以前に比して拓影が現存する石刻の増加したことがわかる。理由の１つには「菁華」はもとより、新しく対象に加えた文献に新資料が多く登載されていることがあるだろうが、経験的には元朝後半になるほど、残存する石刻は増えていくことも理由となろう。

これまで４回を通算して、約650件、元朝はあと50年続く。今後新しく紹介されるものを考えれば、まだ1000件ちかくが残っていることになる。このペースでは、この目録の完成にまだ５年以上はかかりそうだ。基本データは入力済みとは言うものの、新収石刻の追補、改訂などの目録の整備の必要もある。また、報刊所載の新出石刻については、『中国考古学年鑑』所載のものを中心に、雑誌などから資料収集をおこないつつあるが、まだ十分とはいえない。さらに新地誌の問題もある。いずれにせよ、前回も述べたように、公開の方策について検討をおこなわなければならない段階にきていると感じている。

目録凡例

以下、目録の各項目ごとに凡例を掲げる。なお、石刻の配列順は、日まで比定できるもの、月まで、年まで、の順とする。また、上述のように今回補訂した箇条には★を付した。

名称

次の順序で採用する。　首題、額、掲載文献の命名、森田の命名

同じく原石にあるタイトルとして、首題と額があるが、首題を額よりも優先するのは、額のない石刻の方が多い上に、額そのものやその拓本が失われたり、取り違えられたりすることがままあるためである。

墓碑、墓誌などのように個人にかかわる石刻の場合は、諱を（　）に入れて付記する。

聖旨などの命令文については、対象、年次（複数刻の場合は略）をタイトルに加え、「元氏県開化寺虎児年聖旨碑」のように表記する。石刻の額や首題が、たんに「聖旨」などでなく、具体的な内容を有する場合はそれを用いる。★

摩崖については、人物名を主とし、必要に応じて小地名を付す。★

名称根拠

名称の欄に記した石刻の名称の根拠となったものを表示する。掲載文献の命名によった場合はその略称を用いた。「森田」は、この目録のために森田の命名したものである。

日付

日付の決定と表示の原則は、次のとおりとした。

文中にある一番新しい日付を取ることを原則とする（追刻は除く）。墓誌、墓碑の類については、被葬者の没年に配列するという考え方もあるが、石刻の成立と時間差がある場合もあり、その方式は取らない。

命令文などを刻したもので、立石の日付が不明確な場合は、文書の日付とし、複数刻されている場合は、最新のものを採り、各命令文の年次を注記に掲げる。また、命令文などに見られる十二支のみの表記については、判断の根拠を注記に記す。★

干支による表記は年に換算し、月日についても、干支表記は数字に直す。ただし、憲宗以前の干支表記のものは干支を併記する。

月、日の別称のうち、確定できるもの（孟春、仲夏、望日、既望、重午、重陽など）は、数字に換算して表記する。ただし、問題の残るものについては、注記欄に原表記を掲載する。

年によって動くもの（二十四節気など）は、それを表示する。

たんなる重刻（たとえば、元碑を明の萬暦年間に再刻したもの）については、その石刻の時期に配列し、※をつけるとともに、注記に重刻の日付を入れる。過去の朝代の石刻を元朝時代になって重刻したものについては、重刻された時期に配列し、その旨を注記する。

日付根拠

上記の年代比定の根拠となったものを記す。「立石」、「建」、「記」、「祔」、「葬」など、石刻中で用いられている表現をそのまま用いることを原則とした。「日付」は石刻末に日付のみあるもの、「文書」は刻された文書の日付に拠ったもの、「文中」は、文中にある表現から比定したもの、拓影掲載文献の年代比定に拠った場合は、その略称を記した。

所在地

拓影掲載文献の表記に従い、省名（北京を含む）と２字表記の県名で掲載する。この場合、新旧の地名が混在することはやむをえないものとする。また、石刻の移動については配慮しないこととする。一部、石刻の集中する史蹟の名を付している。

所載

複数の文献に所載の場合は、採録文献の対象範囲の広い文献から並べる。「菁華」については、最後とする。また、「北図」にあるものについては、「菁華」は略した。これまでの経験では、北図にあるものはかならず掲載されているからである。

文献名については略号を使用し、文献と略号の一覧はこの文末に掲載した。

注記

石刻の内容が数截にわたる場合、碑陰、碑側にも内容がある場合などは、ここに注記する。★

いずれの面が碑陽、碑陰なのか判別しがたい事例もあるが、引用文献に従う。★

「法帖」と注記したものは、内容よりも筆跡を鑑賞するために刻された石刻と見做されるものである。★

その他

文字は常用漢字を用いることとする。

拓影出典目録

※使用した略称のあいうえお順とし、数字の種類を注記した。今回収録すべき石刻のなかった文献については＊を、今回から採録した文献には※を、それぞれ付している。

安陽　安陽県古碑刻集萃　安陽県老幹部局他　2004　頁　※
于右任　西北民族大学図書館于右任旧蔵金石拓片精選　上海古籍出版社　2008＊
　図版番号
華山　華山碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1995　図版番号　＊
漢中　漢中碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1996　図版頁
翰墨　翰墨石影　河南省文史研究館蔵搨片精選　広陵書社　2003　冊・頁
咸陽碑刻　咸陽碑刻　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　2003　図版番号　＊
咸陽碑石　咸陽碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1990　頁　＊
戸県　戸県碑刻　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　2005　図版頁
固原　固原歴代碑刻選編　寧夏人民　2010　石刻番号　※
蔡11　八思巴字碑刻文物集釈　中国社会科学出版社　2011　連番　※
　拓本の所蔵者や典拠が記されているものについては、それを注記した
三晋盂県　三晋石刻大全陽泉市盂県巻　頁　※
三晋洪洞　三晋石刻大全臨汾市洪洞県巻　三晋出版社　2009　頁　※
山西　山西碑碣　山西人民出版社　1997　頁
寿陽　寿陽碑碣　山西古籍出版社　2007　頁　※
　三晋石刻大全の寿陽巻は、元については同内容
輯縄　洛陽出土歴代墓誌輯縄　中国社会科学出版社　1991　頁
紹興　紹興図書館館蔵地方碑拓選　西冷印社出版社　2007　頁
常熟　常熟碑刻集　上海辞書出版社　2007　※
　拓影は巻頭グラビアのみ（頁なし）
新出　新中国出土墓誌　図版番号
「新出陝西２」のように巻名を表示した
図志　北京元代史蹟図志　北京燕山出版社　2009年　頁　※
西南　中国西南地区歴代石刻匯編　天津古籍出版社　1998　冊・頁
西北　中国西北地区歴代石刻匯編　天津古籍出版社　2000　冊・頁
西北民族　西北民族碑文　甘粛人民出版社　2001　＊
　録文は多いが（転載を含む）、拓影は巻頭グラビアのみ（頁なし、元は２件）
陝西　陝西碑石精華　三秦出版社　2006　図版番号
泰山　泰山石刻大全　斉魯書社　1993　冊・頁
涿州　涿州貞石録　北京燕山出版社　2005　頁
澄城碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　2000　頁

長治　長治金石萃編　山西春秋電子音像出版社　2006　頁　※

重陽　重陽宮道教碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1998　図版頁

天一　天一閣　明州碑林集録　上海古籍　2008　※

拓影は巻頭グラビアのみ（頁なし）

東洋　東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録　東洋文庫　2002　連番

図版が掲載されているわけではないが、国内で閲覧可能ということで収録する。

道家　道家金石略　文物出版社　1988　頁　＊

寧夏　寧夏歴代碑刻集　寧夏人民　2007　頁　※

白話　元代白話碑集録　科学出版社　1955　図版番号

柏郷　河北柏郷金石録　文物出版社　2006　頁　※

碑林　西安碑林全集　広東経済出版社　1999　冊・頁

武夷　武夷山摩崖石刻　頁　※

菩提　菩提達磨嵩山史蹟大観　三宝書院　1981再版　頁　※

法源　法源寺貞石図録　五洲伝播出版社　2006　頁　※

北京精粋　北京文物精粋大系・石刻巻　北京出版社　2004　図版番号

北京文研　北京市文物研究所蔵墓誌拓片　北京燕山出版社　2003　頁

北図　北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編　中州古籍出版社　1989－91　冊・頁

ただし今回の対象となるのは第49冊のみ

洛陽名碑　洛陽名碑集釈　朝華出版社　2003　頁

羅蔡　八思巴字与元代漢語（増訂版）　中国社会科学出版社　2004　図版番号

掲載の拓影は北京大学図書館所蔵のもの（補を除く）

楼観　楼観台道教碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1998　図版頁

拓影画像データベース

人文　京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料

http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/

京都大学人文科学研究所附属漢字情報センターが提供する画像データベース。きわめて鮮明な大型画像を見ることができる。このデータベースの公開が石刻研究を大きく進展させたことは、これまでにも紹介してきた。付されている番号を表示したが、各番号の頭にある「GEN」は略した。

菁華　碑帖菁華

中国国家図書館所蔵の拓本画像データベース。国家図書館の検索サイトの中の「図片専欄」にある。収録対象とする期間について、年代検索をおこなって、対象資料を採録した（2011年８月中旬に確認）。ただし、総目的なものが見出せないので、完全にチェックできているかどうかは不明である。なお、今回の目録の対象範囲では、「北図」に載せられていて「菁華」にないものはないので、煩を避けるため、「菁華」の注記は略した。画像については、大小精粗にはばらつきがあり、内容判読が可能なだけの解像度がないものも含まれるが、新収録

のものについては画質もよく（カラー画像のものもある）、利用価値が高い。ただし、画面構成上に難があり、すべての拓影が利用しやすいわけではない。また、年代比定などに関しては、「北図」そのままでなく修正が加えられていることもあるが、すべてが正しいわけではない。アドレスは変更されることがあるようなので、省略する。

付記

この目録は、平成22年度の奈良大学研究助成、「石刻史料の地域史研究への応用　洛陽地区を中心に」および、平成20年度～22年度科学研究費基盤研究Ｂ「中国社会へのモンゴル帝国による重層的支配の研究　元朝史料学の新展開をめざして」（研究代表者村岡倫龍谷大学教授）の分担研究者としての成果の一部である。さらには、過去の科学研究費や奈良大学研究助成などの助成金による文献の集積が基礎となっている。

名称	名称根拠	日付	日付根拠	省	県	掲載	注記
襄城県学廡記	首題	至大元年２月16日	立石	河南	襄城	翰墨6･52	
供土洞道糧記	北図	至大元年４月	立石	山西	不明	北図49･001	名称は北図による、拓影では首題の下線部分は見えない
松江宝雲寺記	首題	至大元年５月15日	立石	江蘇	松江	北図49･002	
重修興陽院碑	首題	至大元年５月15日	立石	河南	安陽	安陽73	
加封孔子聖旨致祭碑	白話	至大元年７月11日	文中	山東	曲阜孔廟	白話3、菁華	
宣授少林提舉興福普照蔵雲大師山公庵主(恵山)塔銘并序	首題	至大元年７月16日	死去	河南	登封少林寺	人文077X	
特贈鄭鼎制宜誥勅	羅蔡	至大元年８月	文書	山西	陽城	羅蔡12	上截パクパ、下截漢文
至大元年代祀中鎮記	森田	至大元年12月	立石	山西	洪洞	三晋洪洞70	
万安寺茶榜	菁華	至大２年正月15日	刻	河南	登封嵩山	菁華	法帖、題の部分なし
済源紫微宮至大２年聖旨碑	森田	至大２年３月６日	文書	河南	済源	翰墨6･54	
加封聖詔	額	至大２年５月19日	立石	雲南	大理	大理1･49、西南15･21	大徳 11 年聖旨、記あり
大元保定路易州淶水県金山寺淳徳苦行円融広慧衲衣禅師(慶恩)塔記	首題	至大２年９月９日	立石	河北	淶水	北図49･003-06	至大２年聖旨同刻
大元故都元帥鄭公(愆徳)神道碑銘	篆額	至大２年９月20日	卒	不明	不明	菁華	卒日は菁華による
大元善士畢君(寛)碣表	首題	至大２年10月	立石	山東	曲阜	菁華	
重興新安洞真観碑	首題	至大２年10月	立石	河南	新安	名碑71	
墓誌残石	菁華	至大２年12月11日	葬	広東	番禺	菁華	
加封孔子聖旨并記	森田	至大２年12月	日付	浙江	紹興	菁華	菁華の各地 5725、菁華の各地 5240（所在地空欄、12 月９日とする）も同じものか
臨済正伝虎丘隆禅師(紹隆)碑	首題	至大３年正月16日	建	江蘇	蘇州	菁華	宋の徐林撰の文を趙孟頫が書、法帖
沈妙清墓買地券	森田	至大３年正月25日	文中	寧夏	固原	寧夏53、固原28	

馬鈺等誥封碑	北図	至大３年２月	日付	不明		北図49･007	
披雲道院聖旨碑	山西	至大３年２月	文書	山西	永済	山西274	上截至大３年２月聖旨、下截至大元年７月聖旨
慶元路学重建大成殿記	首題	至大３年３月29日	備	浙江	寧波天一閣	天一	
完顔鋭題名	武夷	至大３年清明前	日付	福建	武夷	武夷36	
仏慧広照孤月興公禅師（海興）行道記	首題	至大３年４月	日付	河北	元氏	菁華	年次不鮮明、日付下部欠落、菁華は４年とする
雄弁法師大寂之塔	額	至大３年５月28日	立石	雲南	昆明	北図49･008、大理1･50	
加封孔子聖旨并江浙行尚書省劄付	森田	至大３年７月	日付	江蘇	蘇州	北図49･009	
故崇玄処士王公（宗源）壙記	首題	至大３年８月28日	窀	浙江	紹興	紹興52	
建康路文廟祭器記	首題	至大３年９月	立石	江蘇	江寧	北図49･010（陽）、011（陰）	碑陰：祭器数目
答失蛮重装仏国山仏像記	東洋	至大３年９月	題	浙江	杭州霊隠寺	東洋2318	
重修上泉里蔵山廟記	首題	至大３年10月10日	立石	山西	盂県	三晋盂県27	
加封孔子聖旨	森田	至大３年12月□	日付	江蘇	常熟	常熟	日付下部見えず
加封孔子聖旨并記	森田	至大４年正月上旬	書	山西	翼城	山西273	
呉郡糧田続記	額	至大４年３月	東洋	江蘇	日付	東洋2319	２枚あり、月の部分は欠落、東洋は[illegible]とする。
崇国寺□□禅師幢	菁華	至大４年季春？	文中	北京	西城区	菁華	新街口出土、断片
創修天王院記	首題	至大４年５月２日	立石	河南	輝県	翰墨6･55	
修武県郷学記	首題	至大４年７月	立	河南	修武	翰墨6･56	
□国西秦王廟記	首題	至大４年10月15日	立石	河北	獲鹿	北図49･013	小春下元立石
至大四年宗派図	人文	至大４年10月	建	河南	登封少林寺	人文078X	
経台住持朱象先墓碑	楼観	約至大間	楼観	陝西	周至	楼観35	楼観は至大間とする
滕州儒学加封孔子記	森田	皇慶元年３月８日	立石	山東	滕県	北図49･017	上截加封記、中下截題名

大元崇国寺仏性円融崇教大師演公（定演）碑銘并序	横題	皇慶元年３月	建	北京	西城区	北図49･015（陽）、016（陰）、人文080A（陽）、080B（陰）	碑陰：崇国北寺開山第一代宗派図
特贈鄭鼎制宜誥勅	羅蔡	皇慶元年３月	文書	山西	陽城	羅蔡13	上截パクパ、下截漢文
集仙宮御挿竹	横題	皇慶元年３月後	北図	江蘇	嘉定	北図49･018	“皇慶元年集仙宮瑞竹記碑陰”と北図にあり
有元故少中大夫懐孟路総管兼管諸軍奥魯管内勧農事孫公（顕）神道碑銘并序	首題	皇慶元年４月８日	立石	河南		翰墨6･58	
送友人李愿帰盤谷序	横題	皇慶元年４月９日	書	江蘇	太倉	北図49･019-22	法帖、趙孟頫跋
感応碑記	首題	皇慶元年４月12日	立石	河南	輝県	翰墨6･57	
特賜光禄大夫大司徒領諸路釈教都総統住持大聖寿万安寺都壇主揀公舎利霊塔	全文	皇慶元年７月	日付	北京	門頭溝	図志194	
楼観大宗聖宮重修説経台記	首題	皇慶元年８月７日	立石（左側による）	陝西	周至	北図49･024（陽）、025（右側）、西北08･001（陽）、002（右側）、楼観36（陽）、37（陰）、38（左右側）	
兗国公廟礼部禁約碑	北図	皇慶元年８月18日	立石	山東	曲阜顔廟	北図49･023	東洋 2320 は大徳 11 年 10 月榜示を碑陰とする
静江路修学造楽記	首題	皇慶元年８月	記	広西	桂林	西南5･82	“元季壬子”とある
陋巷故宅之図	横題	皇慶元年秋	人文	山東	曲阜顔廟	人文081X	年号は泰定にも見えるが、人文に従っておく
妙厳大師塔銘（断片）	新出北京	皇慶元年10月	新出北京	北京	不明	新出北京72	壬子歳十月建
柏林寺元聖旨碑（碑陰下部）	人文	皇慶元年11月12日	文書	河北	趙州	人文041C	041C は碑陰拓本の下半分、猴児年（元貞2）聖旨の下半分と、鼠児年聖旨が見える、皇帝名は曲律皇帝まで、人文 041B 参照
清涼山脩定寺功徳記	首題	皇慶元年12月15日	立石	河南	安陽	安陽77	
重開義井記	森田	皇慶元年12月	建	江蘇	蘇州	菁華	
「秋谷」摩崖	森田	皇慶元年	長治	山西	長治	長治251	筆者李孟の秦国公在爵期間と帰葬の時期から、長治は皇慶中とする
大元朝列大夫騎都尉弘農伯揚公（瓊）神道碑銘	首題	皇慶２年正月13日	建立	河北	曲陽	北図49･026（額）、027（碑身）	皇慶癸丑孟春一日辛卯朔後十有三日建立
加封孔子記	森田	皇慶３年正月15日	立石	河南	郾陵	菁華	聖旨なし

建康路学祭器総数之記	篆額	皇慶２年正月16日	記	江蘇	江寧	北図49･028	
彰徳路湯陰県鹿楼村創修隆興観碑	首題	皇慶２年３月18日	立石	河南	湯陰？	翰墨6･59	
開禅室碑	菁華	皇慶２年５月５日	日付	浙江	杭州	菁華	不完全
加封孔子聖旨并記	森田	皇慶２年５月13日	跋	陝西	西安	北図49･029、西北08･003、碑林030･2997	上截聖旨、下截記
中嶽投龍簡詩	篆額	皇慶２年５月21日	日付	河南	登封中嶽廟	翰墨6･60	
趙氏仏頂尊勝陀羅尼神呪幢	文中	皇慶２年７月15日	日付	雲南	嵩明	西南14･22、菁華	西南はほとんど読めない
華蔵荘厳世界海図	篆額	皇慶２年７月16日	建	陝西	西安	人文082X、碑林102･0118、菁華	
十方大霊巌禅寺第三十二代普耀月庵海公禅師（福海）道行碑	首題	皇慶２年８月１日	立石	山東	長清	北図49･030、人文083X、084X（額アリ）	
皇元昭文館大学士中奉大夫会福院使領工部事邱公（彦通）重修先塋之碑	首題	皇慶２年８月７日	日付	河北	曲陽	菁華	
御香碑記	首題	皇慶２年10月23日	立石	遼寧	北寧北鎮廟	東洋2321、菁華	碑陰題名
勅建大都路総路碑	首題	皇慶２年10月	建	北京	東城区	人文085A（陽）、085B（陰）、北図49･031（陽のみ）、菁華には碑陽2種	碑陰篆額：勅建大都路総管府碑陰記
霊巌寺山門五荘之記	篆額	皇慶２年12月15日	立石	山東	長清	北図49･032	
大元故太傅録軍国重事宣徽使領大司農司太医院事鉄可公（鉄哥）墓誌銘	首題	皇慶２年	卒	北京	城内	北京文研75、精粋250（陽）、251（陰）、図志202（陽）、203（陰）	誌石の両面に刻されている
漢槐図并記	北図	皇慶２年	日付	河南	滎陽	北図49･033	
合馬題名	菁華	皇慶中	文中	浙江	青田	菁華	
張長老（明）墓碑	大理	皇慶中？	文中	雲南	大理	大理1･54、西南15･22	文中に皇慶元年中春とあり、釈名道真
無名墓碑	森田	皇慶中？	出典	雲南	大理	大理1･55、西南15･23	文中に於皇□とあるので、ここに置く
孔子加封記	森田	皇慶３年１月15日	立石	河南	鄢陵	菁華	聖旨なし、延祐改元は正月丁未（22日）
無極重修県廨庁壁記	首題	延祐元年３月１日	日付	河北	無極	北図49･034	

大都路宛平県永安郷魏家荘故奉訓大夫高公(高信)神道碑	首題	延祐元年３月３日	立石	北京	大興	図志63(陽)、66(陰)	碑陰：祖宛平高氏綴華聯芳図
傅巖廟碑	首題	延祐元年４月８日	菁華	山西	平陵	菁華	額はパクパ、拓が薄い
長興州修建東嶽行宮記	首題	延祐元年４月11日	誌	浙江	長興	北図49・035	碑陰：施主題名及土田界址、北図には額・碑陰なし
元氏県開化寺虎児年聖旨碑	森田	延祐元年４月15日	文書	河北	元氏	人文088X(漢文のみ)、089X、北図50・142、蔡11・13	皇帝名は曲律皇帝まで、上截パクパ、下截漢文
曲阜祖廟真影	題字	延祐元年５月	立石	浙江	処州	人文094X	
重陽万寿宮虎児年聖旨碑	森田	延祐元年７月28日	文書	陝西	戸県	人文086X、蔡11・11(碑陰拓影有、碑陽はBonaparte)、重陽35	皇帝名は曲律皇帝まで、上截パクパ、下截漢文、碑陰：上截陝西行中書省劄符(日付不明、ペルシャ、パクパ書込あり)、下截下院題名、菁華は碑陰を1318年碑の碑陰とする
彰徳善応儲祥宮虎児年聖旨碑	森田	延祐元年７月28日	文書	河南	安陽	白話4、蔡11・12、安陽71	皇帝名は曲律皇帝まで、上截パクパ、下截漢文
投龍簡記	首題	延祐元年８月１日	立石	河南	済源	北図49・036(陽)、名碑72(陰あり)	
乃賡后歌石刻	長治	延祐元年８月上旬	長治	山西	長治	長治252	
趙生忠墓碑	大理	延祐元年９月15日	立石	雲南	洱源	大理1・56、西南15・24	
挙公提点(智挙)寿塔	額	延祐元年９月15日	立石	山東	長清霊巌寺	人文079A(陽)、079B(陰)、092X(陽)、菁華(陽)	碑陰は山偈奉示(至大４年仲冬)と宗派図
霊巌寺第三十三代古巌就公禅師(普就)道行之碑	首題	延祐元年９月15日	立石	山東	長清霊巌寺	人文090A(陽、額なし)、090B(陰)、091X(陽、額あり)、菁華(陽)	碑陰：題名(人文下半欠)
加封瓊真上仙天后制詔碑	菁華	延祐元年９月	文書	福建	閩県	菁華	
重修香泉寺記	首題	延祐元年10月	立石	河南	汲県	翰墨6・61	
大元贈大司空開府儀同三司追封晋国公少林寺開山光宗正法大禅師裕公(福祐)之碑	首題	延祐元年11月１日	立石	河南	登封少林寺	人文093A(陽)、093B(陰)、翰墨6・62、名碑73、菁華(額・陰なし)、菩提33(陽)、37(陰)	碑陰：嗣法門人宗派図
□志平大師(尹志平)碑	北図	延祐元年12月27日	立石	不明		北図49・037	首題部分欠

貞節堂記	首題	延祐２年正月	立	河北	柏郷	北図49･038、柏郷61	柏郷は題額拓影あり、北図は所在記述なし
君傳伯純之塔	首題	延祐２年２月21日	建	河北	淶水	北図49･039	菁華には2件掲載するが“君傳伯純及妻崔氏塔幢”とする画像のほうが鮮明
大元贈中憲大夫中書兵部侍郎上騎都尉清河郡伯張公(成)墓碑	首題	延祐２年３月□	日付	山東	成武	北図49･041	
大元勅蔵御服之碑	首題	延祐２年３月３日	立石	陝西	戸県	人文096X(額なし)、碑林194･0834、陝西227、重陽36、菁華	人文 95X は、後代に作られたもの？
通奉大夫湖広等処行中書省参政速安并男中奉大夫曲迷失不花建塔記	首題	延祐２年３月	記	北京	西城区	人文097X、北図49･040	
賈母貞節碑記	柏郷	延祐２年３月	立石	河北	柏郷	柏郷37	右上約 1/4 を欠く
重修玉泉観記	首題	延祐２年４月中澣	記	陝西	澄城	北図49･045、西北08･004	
元故大中大夫西蜀四川道粛政廉訪使梁公(天祥)神道碑銘	首題	延祐２年７月10日	建	山西	平遥	北図49･046	
嶧山玉皇頂	人文	延祐２年８月15日	文中	山東	鄒県	人文098X	
宗公提点寿塔	本文	延祐２年８月15日	立石	山東	長清霊巌寺	人文99A(陽)、99B(陰)、100X(陽)、菁華(陽、陰)	碑陰：落髪小師題名
教公首座寿塔	本文	延祐２年８月15日	立石	山東	長清霊巌寺	人文101A(陽)、101B(陰)、102X(陽)、菁華(陽、陰)	碑陰：落髪小師題名
運公維那寿塔	本文	延祐２年８月15日	立石	山東	長清霊巌寺	人文103A(陽)、103B(陰)、104X(陽)、菁華(陽、陰)	碑陰：落髪小師題名
重修廟学之記	首題	延祐２年８月	立石	山東	泰安	人文105X	
趙連慶墓碑	大理	延祐２年９月８日	日付	雲南	大理	大理１･57(陽)、58(陰)、西南15･25(陽)、26(陰)	本文は、“謚曰正直温和紫藝布燮趙連慶碑”
太白楼賦	首題	延祐２年９月９日	立石	不明		人文106X	済寧？
大元故中奉大夫湖広行省参知政事宣徽副使劉公(有直)墓誌銘	首題	延祐２年９月25日	刻	河北	邢台	新出河北166	
泰安州申准執照之碑	額	延祐２年９月	文書	山東	泰安	人文107X(陽･額)、108X(陽･側)	
孔子加封詔并記	菁華	延祐２年９月	菁華	山東	淄博	菁華	判読困難

大都房山県新建大成至聖文宣王廟碑	首題	延祐２年10月	立石	北京	房山	北図49･047	
観音鎮龍泉碑	首題	延祐２年10月	立石	河北	定興	菁華	本文、ほとんど読めず
太華山仏巌寺無照玄鑑禅師行業記	首題	延祐２年12月８日	立石	雲南	昆明	北図49･043、44、大理１･59、西南14･23、西南15･27	文中に至正13年生とあり、偽刻？、西南は重出
重修東嶽廟記	首題	延祐３年正月	立石	雲南	昆明	菁華	
大元投奠龍簡之記	額	延祐３年２月10日	立石	河南	済源	北図49･048、翰墨6･63	
慶元儒学洋山砂岸復業公拠	額	延祐３年３月１日	文書	浙江	寧波天一閣	天一	
聖旨残	森田	延祐３年３月30日	文書	不明		菁華	菁華は“嘉熙殿記”とするが内容は聖旨
元故輔君(昌)墓誌銘并叙	首題	延祐３年４月１日	合葬	陝西	西安	新出陝西2･345、碑林095･4759	
夫子廟堂記	首題	延祐３年４月９日	立	山西	盂県	三晋盂県30	天宝11載碑の再建、碑陰：延祐題名
昆明筇竹寺龍児年聖旨碑	森田	延祐３年４月23日	文書	雲南	昆明	北図49･049(蒙)、50(漢)、大理１･60(漢)、61(蒙)、西南15･28(漢)、29(蒙)	皇帝名は曲律皇帝まで、一面回字蒙文、一面漢文
勅賜伊川書院碑	首題	延祐３年４月28日	日付	河南	平等	翰墨6･64	
大元贈奉訓大夫飛騎尉渤海県男賀□(延寿)神道碑銘	首題	延祐３年５月９日	日付	山東	済陽	菁華	
任城二賢祠堂碑	首題	延祐３年６月	立石	山東	済寧	人文109X、北図49･051	
追封孟子父母聖旨碑	森田	延祐３年７月	文書	山東	鄒県孟廟	人文110X(下截のみ)、羅蔡15	上截パクパ、下截漢文
元加封張亜子為文昌帝君碑	漢中	延祐３年７月	文書	四川	漢中	漢中30	
創修礼殿之記	篆額	延祐３月８月望日	記	河南	扶溝	翰墨6･65	日付下部欠落
聖安寺亦黒施鈔看経記	北図	延祐３年10月	北図	不明		北図49･052	回字蒙文２行あり
林州宝厳寺牛児年聖旨碑	森田	延祐３年11月４日	立石	河南	林県	蔡11･10(碑陽碑陰)	碑陽上截パクパ文牛年７月７日聖旨、下截漢文牛児年(蔡11は皇慶２)７月７日聖旨、碑陰上截甲辰年(蔡11は1244)４月28日茶罕官人言語、下截題名

海角亭記	篆額	延祐３年？	出典	広西	合浦	西南5･61（額）、62（記）	年代根拠不明
福寿興元観蛇児年聖旨碑	森田	延祐４年２月13日	文書	北京	宣武	図志190、精粋143、法源	皇帝名は曲律皇帝まで、図志・精粋は写真
興教大師弘公和尚寿塔之記	全文	延祐４年２月	建	不明	不明	北図49･053	
皇元褒封全真五祖七真勅辞	篆額	延祐４年３月３日	立石	陝西	戸県	陝西228、碑林194･0842、重陽38、菁華	１截２截は至大３年２月聖旨
大元故奉訓大夫大都路総管府判官致仕王公（英）墓誌	首題	延祐４年３月７日	祔	河南	洛陽	洛陽新獲296	
柏郷尹張君（楫）徳政之碑	首題	延祐４年３月	樹？	河北	柏郷	柏郷11	
大元太師泰安武穆王（忙兀博羅歓）神道之碑銘	篆額	延祐４年４月21日	建	山東	泰安	泰山3･50	額と部分のみ
張良弼題記	菁華	延祐４年５月28日	文中	河南	濬県	菁華	
永泰寺祖代供養塔銘	人文	延祐４年５月	立	河南	登封	人文111A（111Bは台座彫刻）	
県尹侯公創構講堂記	首題	延祐４年５月	日付	不明		北図49･054	
兗州重修金口閘記	首題	延祐４年６月１日	記	山東	兗州	北図49･055	
観音像	北図	延祐４年６月27日	写	江西	九江	北図49･056	左上に万暦16年の賛
代祀北鎮記	北図	延祐４年６月	日付	遼寧	北鎮	北図49･057（陽）、東洋2323（陽、陰）	碑陰：題名
重修漢太史司馬祠記	首題	延祐４年８月15日	立石	陝西	韓城	菁華	碑陰：施財芳名
□龍安山塔銘記	首題	延祐４年８月15日	日付	北京	房山	北図49･058	首題の前半部判読不能
大元□□大師忠烈□□廟碑銘	首題	延祐４年11月１日	立石	河南	汲県	菁華	菁華：比干廟記
張仲賢墓誌	森田	延祐４年11月３日	誌	河南	洛陽	輯縄760	
贈亜中大夫同知河東山西道宣慰使司事軽車都尉追封隴西侯李公之塋誌	全文	延祐４年11月中旬良日	日付	山西	太谷	北図49･059	
勅賜大龍興寺祝延聖主本命長生碑	首題	延祐４年11月	立石	河北	正定	北図49･060	
何瑋神道碑銘	菁華	延祐４年	菁華	河北	易県	菁華	首題：大元勅賜栄□大夫（以下判読不能）

真元会題名記碑陰	重陽	延祐４年前後	重陽	陝西	戸県	重陽42	碑陽は至元 18 年(重陽 22p)
故父資喜楊公故母香魂李氏墓誌	横題	延祐５年２月15日	立石	北京	房山	北図49･061	
昭済聖母腹中石幢	寿陽	延祐５年３月15日	寿陽	山西	寿陽	寿陽94	
白雲五華宮記	首題	延祐５年３月28日	日付	山東	鄒県嶧山	人文112X	
宸命王文碑	篆額	延祐５年４月26日	文書	陝西	戸県	人文087X、蔡11･9、羅蔡14(第1截のみ)、重陽41、菁華(篆額あり、碑陰:陝西行省劄子)	皇帝名は曲律皇帝まで、４截：１截皇慶２年聖旨（パクパ・漢)、２截虎児年７月28日聖旨(パクパ)、３截同漢文、４截延祐５年４月 26 日聖旨漢文
□□贈朝列大夫同知大名路総管府事騎都尉追封隴西郡伯李公(彬)墓碑銘并序	首題	延祐５年４月	建	河南	許昌	北図49･062	
趙城県石明南里善利渠碑記	主題	延祐５年５月	立石	山西	趙城	三晋洪洞71	拓本の状態が悪く、ほとんど読めないので、洪洞の録文によった
晋祠詩刻	北図	延祐５年６月上旬	書	山西	太原	北図49･063	
大都三禅会河南府路総管府並登封県勧請少林寺焚修祝延皇帝万歳疏碑	人文	延祐５年６月	立石	河南	登封少林寺	人文113X	上截大都三禅會疏、中截河南府路総管府疏、下截登封県疏、いずれも皇慶２年
少林禅寺第十代妙厳弘法大禅師古厳就公和尚(普就)道行碑銘并序	首題	延祐５年６月	立石	河南	登封少林寺	人文116X、翰墨6･67、菩提41(陽)、42(陰)	碑陰：宗派図
宣授大名僧録正宗弘法大師慶公之塔	全文	延祐５年７月10日	立石	河南	登封少林寺	人文114X	
大元檀州水谷修建霞峯観碑銘并序	首題	延祐５年７月22日	立石	北京	密雲	図志42(碑陽)、45(碑陰)	碑陰:至元25年９月21日の記事と題名(年代不明)
大元追封楚国夫人徐君(程鉅夫妻)碑銘	首題	延祐５年７月	建	江西	南城	北図49･064(額)、065(碑身)	
聖旨勅賜大龍興寺長明燈銭記	首題	延祐５年７月	立石	河北	正定	北図49･066	
元故茶局提挙郭君(宗敏)誌銘	首題	延祐５年８月14日	合葬	陝西	西安	新出陝西2･346、碑林095･4781	
大元勅建泗州普照禅寺霊瑞塔碑	首題	延祐５年９月24日	立石	安徽	泗県	北図49･067	
嵩山祖庭少林寺和公山主(智和)塔銘	首題	延祐５年９月□日	日付	河南	登封少林寺	人文115X	日の部分読めず
帰去来辞	首題	延祐５年９月	摸勒	江蘇	太倉	菁華	趙孟頫書、法帖

贈比干詔並詔勅	菁華	延祐５年	菁華	河南	汲県	菁華	貞観19年の碑の重刻
釈迦仏龕記	北図	延祐５年	文中	不明		北図49･069	
釈奠位序儀式図記	横題	延祐５年	出典	広西	桂林	西南11･4	読めない
慈済大師付号記	人文	延祐５年	日付	山東	長清	人文117X	
薬師仏功徳碑	横題	延祐５年	日付	河北	張北	菁華	上半部のみ、碑陰題名
大開元寺興致碑	森田	延祐６年正月	立石	陝西	西安	北図49･070、西北08･005、碑林030･3003、102･0122	102・0122は「玄宗問法図」とする
大元□□南無大師重修真定府大龍興寺功徳記	首題	延祐６年４月28日	立石	河北	真定	人文120X	
程太中等謁聖像題記	菁華	延祐６年４月28日	日付	河北	隆尭	菁華	小さすぎて見えない
霊巌長明燈記	首題	延祐６年５月	立石	山東	長清	北図49･071	
滑州増広学田記	首題	延祐６年６月１日	立石	河南	滑	翰墨６・６８	
塩池御香祭奠記	森田	延祐６年６月１日	祀	山西	運城塩池	人文118X	人文は“謝恩祭奠之記”とする
創建蔵峯寺記	題	延祐６年６月２日	立石	山東	泰安	泰山3-51	
創建崇真観碑	題	延祐６年中元	立石	陝西	戸県	戸県52	
関羽封号碑	森田	延祐６年７月	日付	山西	運城塩池	人文119X	
重修明応王殿之碑	首題	延祐６年８月６日	立石	山西	洪洞	山西276、三晋洪洞	
有元中山学□加号碑楼之記	首題	延祐６年８月	建	河北	定県	北図49･072	
大元□□路大天宝禅寺□□□弘明公塔銘	首題	延祐６年８月	建	河北	邢台	北図49･073	
邵陽光国寺馬児年聖旨碑	森田	延祐６年８月	立石	陝西	邵陽	蔡11･14、菁華	馬児年（延祐5）4月13日聖旨、上截パクパ（Chavannes）、下截漢文（北大）
陳子玉墓買地券	森田	延祐６年９月３日	文中	寧夏	固原	固原131	朱書
大報国円通寺記	首題	延祐６年10月15日	立石	江蘇	嘉定	菁華	年次は菁華による

大元奉元路終南山増修通仙万寿宮碑	首題	延祐６年下元日	日付	陝西	周至	碑林194･0846	
慶真観碑	北図	延祐６年	北図	湖北	均県 武当山	北図49･074	首題欠
皇元加封大成之碑	篆額	延祐６年	日付	河北	涿県	涿州34	大徳 11 年聖旨と延祐の記、記の日付下部欠落
泰安王子開府公長明燈記文	篆額	延祐７年２月１日	書	河南	延津	北図49･075、翰墨6･66	首題：長明燈記、翰墨は左半分のみ、日付は翰墨の録文による
創修円通寺記	首題	延祐７年２月26日	日付	雲南	昆明	大理1･62	西南 25・14 の「創修円通寺記」は別物？
乾明広福禅寺重建観音殿記	首題	延祐７年２月	記	江蘇	江陰	北図49･076	
処州万象山崇福寺碑	首題	延祐７年３月15日	立石	浙江	麗水	北図49･077	
重修顕慶寺之碑	首題	延祐7年3月□旬有五日	立石	山東	滕県	北図49･079	
元故康公（信）墓誌	首題	延祐７年３月清明	立石	北京	房山区	菁華	
元故太常博士敬君（元長）墓碣銘并序	首題	延祐７年３月	建	河北	易県	北図49･080	
玄通弘教披雲真人（宋徳方）道行之碑	首題	延祐７年５月２日	日付	陝西	周至	北図49･081（陽）、082（陰）、西北08･006（陽）、007（陰）、碑林194･0850（陽）、陝西229、重陽43（陽）、44（陰）	碑陰：披雲真人門下法派名氏之図（額）
皇帝登極祀嶽之記	篆額	延祐７年５月８日	菁華	河北	曲陽 北嶽廟	菁華	
大元晋寧路翼城県金仙寺住持弘弁興教大師裕公和尚（広裕）道行碑	首題	延祐７年10月	立石	山西	翼城	山西279、菁華	小春日
甸城碑	人文	延祐７年11月	建	内蒙	豊鎮	人文121X、北図49･083、東洋2324	横題不完全
大理路廟学残碑	大理	延祐中？		雲南	大理	大理１･63、西南15･30	残欠、文中に延祐庚申孟春とあるので、延祐末に置く